

2024 年度 事業報告（地域づくり部）

取組事業の要旨		24年度計画	24年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇基本理念→みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう ◇基本目標→1)地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり 2)地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり 3)地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり ◇上記、三和地区第二次行動計画の骨子を踏まえた地域づくりを目指し、下記諸施策の推進に努める。		1)部会の適宜開催に注力し、チームワーク強化に努める。 2)情宣媒体である「さわかぜ」の積極的な活用をはかる。	1)部会のメンバーも2年目になりお互いをわかり合えるようになってきた全員参加で活動ができた。 2)広報誌「さわかぜ」に共生型サロン実施の模様を掲載しサロンの普及活動のPRとした、さらに広報紙を有効活用していきたい。	☆=計画、★=実績 ☆部会 ☆部会 ☆部会 ☆部 ☆部会 ☆部会 全員参加で優先事業により会議内容を決定して行く。 ★部会 総括 活動計画、打ち合わせ 7/23 活動計画詳細実施打ち合わせ 8/27 フリーマーケット実施打ち合わせ 9/24 活動計画詳細実施打ち合わせ 10/22 令和6年度活動内容総括 3/2 さわかぜを積極的に活用し地域全般に発信する。 共生型サロンの模様を掲載し地域全般に発信した。											
I.地域福祉事業の推進	・地域組織(各小域福祉NW)との連携を強めた諸施策の前進に努める。	1)地域のつながりや助け合いの気運醸成と福祉財源の確保を目的にフリーマーケットの企画・運営に取組む。	1) 歳末助け合い運動事業としてフリーマーケットの実施と当初計画にはなかった歳末助け合い募金活動、を行った。昨年度は2日間であったが本年は1日のみの開催であった。反省点を解決し次回につなげるようにしたい。	フリーマーケット準備 三コミまつりに出店予定 11/5フリーマーケットと助け合い募金活動の実施 実施に向けての活動											
II.コミュニティづくり支援事業	・地域住民相互のつながりや支え合いのすけあうコミュニティづくりを目指す取組みを支援。	1)本年4月スタートとなる共生型サロンへの取組みを積極的に支援していく。 2)子供の居場所づくりに対し、地域の諸事情を踏まえた取組みが展開できるよう支援していく。	1)共生型サロンは5月に山田町会「むつみ会」、12月に新巻町会「やまざくらの会」が発足した、三和地区では計3団体が活動中であり今後も支援、普及活動に取り組んで行く。 2)共生型サロン「やまざくらの会」が休日開催であるため子供たちの参加が可能になっている、なるべく休日に開かれるような普及活動をして行きたい。	実施している地域を積極的に支援し普及拡大に取り組む。 ★山田町会 むつみ会発足 ★新巻町会 やまざくらの会発足 共生型サロンなどを利用した地域の特性に合った取り組みを検討 やまざくらの会のように休日開催が出来るよう活動											
III.子育て世代支援事業	・子育て世帯減少の地域特性を踏まえ、対象層を地域から地区へと広げつつ、参加者の拡大と参加者同士のつながる力(連帯)を強める。	1)子育て世代を対象とした子育てサロンを事業として継承する。 2)対象層の利用拡大へ向け、PRの拡大、活動内容の充実を努める。	1)子育て支援事業は充実した内容で進んでいる。一方で支援者の後継者不足の問題が生じているのでこの解消方法も考えていきたい。 2)対象層の利用拡大へ向け、努力して行く。	<24年度/子育てサロン「さんわ ぽかぽか」実行計画> ★ 4/22 ★ 5/27 ☆ 6/24 ☆ 7/22 ☆ 9/9 ☆ 10/28 ☆ 11/25 ☆ 12/23 ☆ 1/20 ☆ 2/17 計画通り実施 次年度計画 案作成 「さわかぜ」や利用者の口コミなどでPRしニーズに合った内容にする。 計画・検討											

2024 年度 事業 報 告 (広 報 部)

取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績 (見 え る 化)											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇三和地区社協広報紙「さわかぜ」の編集・発行	1) 地区社協の動向を紙面を通じ地域住民に周知する。 2) 紙面を通じ、地域福祉活動への理解と共感を深める。 3) 話題性を高め、地域の主体的な自助努力の醸成を目指す。	1) 従来通り年4回の発行を継続する(6・9・12・3月)	1) 前年に倣い年4回の発行を目標にしたが、掲載事業が年末に集中した関係で発行時期を調整。12月・3月の合併号(34号)とし、3回/年の発行となった。 2) 記事内容は以下および活動総括に記載した。		☆=計画 ★=実績	☆32号 発行 予定 ★32号 6/22 発行			☆33号 発行 予定			☆34号 発行 予定			☆35号 発行 予定
		第32号	第32号/6月22日発行 ・1面→①ふれあいサロン取材(山田町会・むつみ会) ②福祉教育(光風台小取材記事掲載) ・2面→①賛助会員募集記事 ②賛助会費の使途紹介 ②地域の人口動態紹介 ③回顧録 No.2	◇編集会議	↔編集作業	◇校正・仕分け ◇配付									
		第33号	第33号/10月1日発行 ・1面→①安心・安全部特集 *アンケート調査結果報告 ・2面→①更生保護女性会紹介 ②県社協福祉教育発表会 ③ローカルフラッシュ(二日市場町会紹介) ④回顧録 No.3					◇編集会議	↔編集作業	◇校正・仕分け ◇配付					
		12月発行予定は3月発行との合併号とした。													
		第34号	第34号/3月1日発行 ・1面→①歳末たすけあい募金御礼 ②歳末ふれあい福祉各ネットワーク取組紹介 ・2面→①福祉教育取組紹介 ②フリマ取組紹介 ③三和地区フードパントリー取組紹介 ④回顧録 No.4(最終)									◇編集会議	↔編集作業	◇校正・仕分け ◇配付	◇発行

取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本理念→みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう ・基本目標→ 1)地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり 2) 地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり 3) 地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり ・上記、三和地区第二次行動計画の骨子を踏まえた地域づくりを目指し、取り分け2)項の「地域のつながりを豊かにするための仕組み作り」に重点を置き、下記の取り組みを推進する。		1)諸課題への対応を検討する目的の下、第2層協議体を開催する。 2)協議体は年4回の開催を計画する。	諸課題への対応を検討する第二層協議体を年4回実施 協議体は買い物支援の拡大を図り4ネットワークにて実施 協議体は新たな支援活動として便利帳の作成に着手した	☆計画		☆ 第1回協議体		☆ 第2回協議体		☆ 第3回協議体		☆ 第4回協議体		☆	
				★実績		★ 6/27実績		★ 9/18実績		★ 12/13実績		★ 3/12実績		★	
				←──											

取組事業の要旨		24年度計画	24年度実績	計画 & 実績											
推進事業	事業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇ 基本目標→みんなが安心・安全に暮らせる地域づくり 1) 地域住民の緊急時の対応体制の構築 （緊急時連絡カードの配布・更新） 2) 子供の安全・安心を守る活動の推進 （登下校の児童見守り・あいさつ・声掛け運動） 3) 地域の安全を守る活動の推進 （危険箇所の点検と改善、防犯パトロール） 4) 災害時のたすけあい活動の意識啓もう啓発、災害に強い地域づくり(災害支援ボランティア事業)		1) 市内各地協の取組み情報の収集(市社協との連携)をはかり、三和地区活動の向上に努める。 2) 部会の定期開催に注力し、地域の声を安心・安全部の活動に取込む。 3) 地域の防災意識の高揚を目指し、町会長会と連携した合同防災研修会を企画する。	1) 市内各地協の情報収集は、その機会を得ず、次年度の課題としたい。 2) 期初計画に沿って、24年度3回の部会を開催し、地域の声を収集する機会した。 3) 部会打合せに沿って、区内各町会の協力を頂き、防災の備えについてアンケート調査を実施した。	☆=計画 ★=実績				☆No1 部会			☆No2 部会				☆No3 部会
I. 地域の安心・安全を守る事業	1) 医療緊急時連絡カードの地区内全戸配布・更新を進める。 2) 高齢者宅への定期訪問活動を通じ、安心して生活できる地域づくりを進める。 3) 地域内の危険箇所等の点検活動を通じ、その改善に努める。	・2023年度に制定された第2次地区行動計画に沿って、左記事業は各ネットワークの主体的な取組みとして定着するに至っている。 ・したがって、安心安全部の機能としては、各ネットワークおよび安全施策に係わる団体との連携を主体とし、地区全体としての取組み状況をまとめることで、各活動の継続的な推進に努めるよう連携する。	I-1) 医療緊急カード更新実績 ・養 老 NW → 74 戸 ・市 西 NW → 22 戸 ・海 上 NW → 447全数 ・光風台NW → - 戸 * 地区全体 → 543 戸 I-2) 安心生活見守り事業 ・養 老 NW → 404 回 ・市 西 NW → 580 回 ・海 上 NW → 350 回 ・光風台NW → - 回 * 地区全体 → 1,334回 I-3) 地域内危険箇所点検 ・未達となった。	<医療緊急時連絡カード更新> 更新時期は異なるものの各ネットワーク単位で事業展開 養老地区74戸更新 市西地区22戸更新 海上地区447全戸配布 ★三和地区全体更新戸数 543 戸 <安心生活見守り事業> 各ネットワーク単位で1～2回/月の見守り訪問事業を展開 養老地区 / 年間見守り訪問延べ回数 404 回 市西地区 / 年間見守り訪問延べ回数 580 回 海上地区 / 年間見守り訪問延べ回数 350 回 光風台地区 / 年間見守り訪問延べ回数 回 <児童登下校見守り事業> 各ネットワーク単位で各月次の登校見守り事業を展開 養老地区 / 年間児童登校見守り15回/年 市西地区 / 年間児童登校見守り延べ回数 1,831 回 海上地区 / 年間児童登校見守り17 回/年 光風台地区 / 年間児童登校見守り全登校日											
II. 子供の安全を守る事業	1) 児童の安全確保を目的に登・下校時の見守り活動に取り組む。 2) 防犯パトロール展開により、児童の安全確保に努める。		II-1) 児童登校見守り事業 ・養 老 NW→ 15 回/年 ・市 西 NW→ 1,831回/延 ・海 上 NW→ 17 回/年 ・光風台NW→ 全登校日 * 地区全体 → 回/延 II-2) 防犯パトロール ・光風台地区を重点に活動頂いた。												
III. 災害支援ボランティア事業	・災害時のたすけあい活動へ向けて、防災意識の啓発を目的とした学習活動を進める。	・災害発生時の避難所設置等、地域に於ける連携や協力のあり方を課題に検討をして見たい。 ・上記と併せ、それぞれ地域や町会等の災害への備えを伺う中で、広報部と連携した防災意識の高揚に努めたい。	III. 防災支援ボランティア事業 1) 市原市に於ける災害実例に基づく、具体的な対応状況を学ぶ研修を企画・実施した。 2) この研修をベースに、三和地区としての災害対応のあり方が今後の課題となる。 3) その一環として各地域(町会)の災害への備え等、実情や啓蒙活動も課題としたい。	災害時地域連携の在り方の研究に努めたい 災害への備え地域事情調査 【 光風台NW 】 ★地区防災マニュアル作成会議 24/4～24/9 ★25年2月 防災マニュアル全戸配布 【 災害への備えアンケート調査の展開 】 ★8/20・調査依頼書発送 ★8/31・アンケート回収 ★9/17・調査結果役員会報告 ★10/1発行・さわかせ33号にて調査結果を広報											

三和地区社協/年度事業報告様式

2024 年度 事 業 報 告（ た す け あ い 支 援 部 ）

取組事業の要旨			24年度実績	計 画 & 実 績																																												
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																	
◇現行三和地区行動計画基本理念 『みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう』 ＜基本理念に基づき下記を推進事業の柱とした活動を推進＞ ◇公的サービスではまかないきれない日常生活上の生活課題を解決するために、有償による住民相互のたすけあい運動に取組み、住民参加型の地域福祉活動を推進する。		1) 具体的取組みを推進するため部会を基軸とする。 2) 市内各地協の取組状況を部会・役員会へ反映し、活動の質的向上に努める。	1) 情報共有し意思疎通を図るため3回/年の部会開催に取組んだ。 2) 9月にコーディネーター会議を開催し円滑な支援活動の推進に努めた。 3) 他地区日常生活支援活動状況をもとに当番活動の在り方について検討した。	☆ 計画 ★ 実績			☆部会 ★6/12部会		☆部会 ★9/11 コーディネーター会議 支援員養成講座					☆部会 ★3/12部会																																		
		I. たすけあい支援部員当番制による受付業務の継承	1) 登録部員14名中、12名で受付シフトを組み、月・水・金の9時～14時半での受付業務に対応した。(164名/年/延べ人員) 2) 受付業務対応時間は年間902.0時間(対前年27.5時間減)となった。	月別受付業務対応時間(月累計)		月別受付業務対応人員(月累計)																																										
		II. 『つなぐ』を基調に住民依頼を各コーディネータと調整する。 * コーディネータ不足を課題に対策を検討する。	1) 24年度依頼に基づく作業件数(コーディネイト件数)は、373件(対前年58件増)となり、今後更なるコーディネータの増員が望まれる。 2) 支援員(現在37名)の年間稼働人員累計は529人。月均等人員は44.08人が稼働	月別作業件数		月別支援員延べ稼働人員																																										
		III. 依頼内容の分析に基づく今後の対応課題を整理する * 支援会員募集のPRを広報部と連携する。 * 制度利用者拡大に向けたPRを広報部と連携する。	1) 利用会員217名(対前年25名増)となり利用者は着実に増加し対象者を精査する必要も生じてきている。 2) PRでコーディネーター(前年4名→本年7名)、支援会員(前年28名→本年33名)と微増したが更なる増員が必要である。	<table border="1"><caption><地区別利用会員・支援会員・作業件数一覧></caption><thead><tr><th></th><th>市西</th><th>養老</th><th>海上</th><th>光風台</th><th>地区計</th></tr></thead><tbody><tr><td>利用会員数</td><td>55</td><td>36</td><td>15</td><td>136</td><td>242</td></tr><tr><td>支援会員数</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>15</td><td>37</td></tr><tr><td>作業件数</td><td>83</td><td>35</td><td>12</td><td>243</td><td>373</td></tr></tbody></table> <table border="1"><caption><地区別支援会員の变化> ()コーディネータ数 ※内数</caption><thead><tr><th></th><th>市西</th><th>養老</th><th>海上</th><th>光風台</th><th>計</th></tr></thead><tbody><tr><td>令和5年度</td><td>7(1)</td><td>6(2)</td><td>8(1)</td><td>12(3)</td><td>33(7)</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>7(1)</td><td>7(2)</td><td>8(1)</td><td>15(3)</td><td>37(7)</td></tr></tbody></table>			市西	養老	海上	光風台	地区計	利用会員数	55	36	15	136	242	支援会員数	7	7	8	15	37	作業件数	83	35	12	243	373		市西	養老	海上	光風台	計	令和5年度	7(1)	6(2)	8(1)	12(3)	33(7)	令和6年度	7(1)	7(2)	8(1)	15(3)	37(7)	★7月 三和地区全町会回覧を通したすけあい三和の活動内容のPR及び支援員募集を行った。 <
	市西	養老	海上	光風台	地区計																																											
利用会員数	55	36	15	136	242																																											
支援会員数	7	7	8	15	37																																											
作業件数	83	35	12	243	373																																											
	市西	養老	海上	光風台	計																																											
令和5年度	7(1)	6(2)	8(1)	12(3)	33(7)																																											
令和6年度	7(1)	7(2)	8(1)	15(3)	37(7)																																											

取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇基本目標→地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり 1) 地域の特性に即した福祉活動を推進するための地区行動計画の具現化（地区行動計画推進） 2) 地域を支える担い手の発掘・育成 （人材育成事業・福祉教育推進事業・地域講演会の開催） 3) 活動財源確保に向けた取組み強化（賛助会員拡充等）		1) 地域の声を地区社協の施策へ反映させる目的の下に、部会としての機能を最大化する。 2) 部会の定期開催に努め、連携の基盤づくりを進める。 3) 第2次三和地区行動計画に基づく地域の連携を強める諸施策の推進に努める。	●地域福祉活動への地域の理解と 協力が得られるよう賛助会員募集事業に取り組んだ。	☆部会 ☆部会 ☆部会 ★・会員募集日程 ・依頼文書作成 ・集計方法確認 ★・会員募集集計結果の取りまとめ ・その他 ★・会員募集集計結果の取りまとめ ・その他 ☆＝計画、★＝実績 ☆＝計画、★＝実績 ☆＝計画、★＝実績											
1) 地区行動計画の推進	・第二次三和地区行動計画に織り込まれた諸施策を推進する上での地域や諸団体との連携を強める基盤を整備する。	1) あらゆる機会を捉えて地区行動計画の周知に努める。 2) 広報部と連携した地区社協の取組みを、解かり易い形で各家庭までPRし、地域住民の自発的行動を喚起する。 3) 4地区小域福祉ネットワーク連絡会との連携を深め、行動計画の前進に向けた協力基盤づくりに努める。	●広報紙『さわかぜ』を活用し各事業の趣旨説明と実施状況の報告により、さらなるご理解ご協力に努めた。	★さわかぜ32号 ・福祉教育推進事業の実施状況紹介 ・賛助会募集事業要旨と加入依頼 ★さわかぜ33号 ・賛助会員募集事業の結果報告 ← 小域福祉ネットワークとの情報提供 →											
2) 地域を支える担い手の発掘・育成	・住民参加型事業の企画・実践を通した活動意義の啓蒙を進め、次代を担う人材の育成につなげる。	1) 市社協主催の担い手講座等学習機会を最大限活用できる基盤の構築に尽力する。 2) 前年度同様に、地域福祉教育（小・中・高/若年層）へのアプローチを、各学校代表と連携を強めつつ、次代を担う人材育成に取り組む。	●福祉教育推進事業の一環で高校生による子育てに関するボランティア活動の支援として絵本の読み聞かせ等を通じ世代間交流を図った。 ●県社協が推進する福祉教育の取組みを地域の学校と連携し、昔遊びの伝承をリレー方式で実施し、世代間交流を図った。	★5/30市原高校で福祉教育推進事業 ★6/25双葉中学校で福祉教育推進事業 ★12/18光風台小学校で福祉教育推進事業 ← 地域福祉教育の推進 学校（小・中・高）と連携した取組み → ★1/14市原高校で福祉教育推進会議											
3) 活動財源確保に向けた取組み強化（賛助会員募集の取組み）	・自主財源を確保し、三和地区の主體的な地域福祉活動の充実をはかる。	・少子高齢化率の高い三和地区の地域特性に見合う地区独自の福祉施策の前進に向けた自主財源の確保、および社協理事と地域住民との顔をつなぐ活動の一環として、賛助会員募集拡大に努める。	●地域福祉活動への地域の理解と協力が得られるよう賛助会員募集事業に取り組んだことで自主財源確保にも繋がった。 ●結果として、個人149口、団体185口、合計334口のご協力を得た。広報紙さわかぜ33号に結果報告と併せお礼文書を掲載した。	★ 4/18役員会にて取組み概要説明 ★ 5/16役員会にて取組み実施要領確認 ★ 6/22理事会にて取組み要請 ← 会員募集期間（7/1～8/31） → ★6月下旬町会長宛協力要請書発送 ★8/4 第1次集金日 ★9/1 第2次集金日 ← 集計期間（9/1～15） → ★9/19役員会で集計結果報告											

取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇ネットワークを構成する地区13町会と連携し、小域圏における地域福祉事業を促進する ◇具体的な地域福祉事業は、児童・高齢者の見守り活動を基軸とし、以下、4点を事業の枢軸とする	1)地域住民への福祉に資する諸施策の企画・立案・推進 2)小域圏である市西小学校と連携した児童福祉対策推進 3)高齢者の健康寿命促進を念頭に、福祉サービスの提供とその質的向上を目指す	1)各事業の推進に向け、以下の会議体を運営する。 ①役員会(適宜開催) ②推進委員会(適宜開催) ④ネットワーク協力員会議(1回/年の開催を計画)	①役員会6回/年開催 ②推進委員会3回/年開催 ③ネットワーク協力員会議1回/年開催 *年度計画に沿って開催。それぞれの実施状況は右の計画☆実績★の通り	☆役員会★4/13開催 ☆役員会★5/12開催 ☆役員会★6/16開催 ☆推進委員会★5/26開催 ☆役員会★10/20開催 ☆役員会★12/15開催 ☆推進委員会★11/10開催 ☆役員会★2/16開催 ☆推進委員会3/9開催★ ☆=計画 ★=実績 ☆ネットワーク協力員会議★7/21開催											
<u>I.児童福祉事業</u>	◇学区である市西小学校と連携した児童福祉施策の推進。	1)児童登下校時見守り活動 * 児童登下校時、挨拶運動と併せた見守り活動を実施 2)学校・PTAと連携した環境美化作業の取組み 3)学校行事と連携した児童福祉教育の促進 4)千葉県福祉教育の推進	1)児童登下校時見守り活動 *登校時見守り延べ 1,310名 *下校時見守り延べ 536名 2)学校美化作業2回実施 3)学校協力事業・バザーは中止となった。 4)福祉教育の一環として、社協とは別途にネットワークとして市西小と伝承遊びを実施	☆見守り★ 年間を通した登下校時の見守り・声掛け活動 ☆奉仕除草作業★5/11実施 ☆奉仕除草作業★8/24実施 ☆伝承遊び★10/28実施 ☆PTA協力事業バザー★中止となった ☆見守り★											
<u>II.地域福祉事業</u>	◇緊急時連絡カードの常備推進	1)常備状況の点検・確認 2)不足カードの補充	1)緊急時連絡カードの保管状況の点検活動実施 2)不足カードの補充 * カードの更新配布 22名 * 保管筒の補充数 20本 * 表示ステッカー 20枚	更新計画期間 取組展開期間											
<u>III.高齢者福祉事業</u>	◇安心生活見守り訪問制度の推進	1)新規見守り訪問員認定講習 2)見守り訪問活動の進捗管理 3)訪問員フォローアップ研修の企画・実践 4)歳末福祉事業の企画・実践	1)訪問員認定講習受講 7名 2)見守り訪問活動取組み状況 * 認定訪問員数 22名 * 訪問対象者数 38名 * 訪問実施延べ数 580名 3)フォローアップ研修の実施 4)歳末福祉事業の企画・実践 12月度の訪問活動は、歳末ふれあい福祉として災害時の非常食セットを配布した。	☆認定講習★4/28開催 ☆見守り★訪問 訪問員フォローアップ研修★2/16開催 各町会訪問員単位で月1～2回の見守りを計画 各町会訪問員単位で月1～2回の見守りを実施 歳末ふれあい福祉準備期間実施期間 ☆見守り★訪問											
<u>IV.地域活性化事業</u>	◇地域の声を傾聴し、新たな地域ニーズに応える事業計画の創成に努める	1)共生型サロンの取組み検討に努める。 2)前年より開始した買い物ツアーの拡充を目指す。	1)各町会長に共生型サロンの理念をPRし、その周知・普及に努めた。 2)社会福祉法人あじさい苑の協力を頂き、買い物ツアー運行に努めた。 * 地区内の利用者延べ数は41名となった。	取組み町会の主体的運営によりサロンの取組み継承した。併せて、地域(町会)への普及・拡大に努めた。 毎月火曜の買い物ツアーと取組みを継承した。併せて、新たな希望者の声の掌握に努めた。											

三和地区社協/年度事業計画様式																
2024 年度 事 業 報 告 (養老小域福祉ネットワーク)																
取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績												
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
◇養老小学校区小域福祉ネットワークとして、10町会の連携強化の下、学童および地域住民の福祉の向上に取組む。 ◇具体的な地域福祉施策として、以下、4点を事業の柱とする。	1)学区である養老小学校と連携して児童の安全と校推進する。 2)地域住民の安心・安全の福祉活動推進する。 3)高齢者の健康寿命を念頭に福祉サービスの提供とその質的向上を目指す。	1)各事業を推進する為、次の会議を設置して運営していく。 ①小学校との事前協議 ②役員会(5回/年) ③推進委員会(2回/年) ④町会長会議(1回/年) ⑤町会長・民生委員会議(2回/年)	1)各事業を推進する為、以下の会議を開催した。 ①小学校との事前協議(5/1) ②役員会(5回/年) ③推進委員会(2回/年) ④町会長会議(1回/年) ⑤町会長・民生委員会議(2回/年)	☆4/20 役員会 ★4/20 役員会 ☆＝計画 ★＝実績	☆5/18 推進委員会 ★5/18 推進委員会	☆6/15 役員会 ★6/15 役員会	☆7/13 役員・町会長会議 ★7/13 役員・町会長会議		☆9/14 役員会 ★9/14 役員会	☆10/19 役員・町会長・民生委員会議 ★10/19 役員・町会長・民生委員会議	☆11/16 役員会 ★11/15 役員会	☆12/6 役員・町会長・民生委員会議 ★12/6 役員・町会長・民生委員		☆2/15 役員会 ★2/15 役員会	☆3/1 推進委員会 ★3/1 推進委員会	
<u>I.児童福祉事業</u>	◇学区である養老小学校と連携した児童福祉施策の推進。	1)児童登校見守りを月次ペースで実施する。 2)学校・PTAと連携し、環境美化作業に取組む。 3)学校行事と連携した児童福祉活動推進。	1)児童登校見守り ・回数15回/年・人数381名 2)環境美化作業 ・回数3会/年・人数221名 3)学校行事と連携した児童福祉活動実施(1回/年) ・世代間交流事業(1/22)(課題・方向性) 各事業の推進を図る為・学校・PTAと更なる連携強化を図る	☆4/8 9・10・11 ★4/8 9・10・11	☆5/10 ★5/10 ☆5/11 除草作業 ★5/11 除草作業	☆6/10 ★6/10	☆7/10 ★7/10 ☆8/24 除草作業 ★8/27 除草作業		☆9/2・10 ★9/2・10	☆10/16 ★10/16 ☆10/19 枝切作業 ★10/19 枝切作業	☆11/8 ★11/8	☆12/10 ★12/10	☆1/6 ★1/6 ★1/22 世代間交流	☆2/10 ★2/10	☆3/10 ★3/10	
<u>II地域福祉事業</u>	◇「緊急時連絡カード」を各家庭に常備推進	1)各町会長に「緊急時連絡カード」の更新の案内を各町会に回覧する。 2)追加・更新の要請に基づきカード・保管筒・表示ステッカーを配布する。	1)各町会長に「緊急時連絡カード」の更新の案内を各町会に回覧しました。 2)配布実績 ・緊急時連絡カード 74枚 ・保管筒 65本 ・ステッカー 70枚				取組実施期間 ←→ 取組実施期間 ←→									
<u>III.高齢者福祉事業</u>	◇安心生活見守り訪問制度の遂行。	1)新規訪問員認定講習実施。 2)訪問員活動報告の集計。 3)訪問員フォローアップ研修の実施。	1)新規訪問員基礎研修実施 ・4/7(日) 2名 2)訪問員活動実績回数 ・訪問員数 24名 ・対象者 22名 ・訪問回数 404回 3)訪問員フォローアップ研修 ・3/1(土) 16名 ・マイナー保険証について	☆訪問員認定講習 ★基礎研修実施(4/7)2名												☆安心訪問員フォローアップ研修 ★3/1(土)フォローアップ研修実施(16名)
<u>IV.地域活性化事業</u>	◇「ようろう絆の会」として、歳末福祉事業を企画・実践する。 ◇高齢者福祉ニーズ調査結果に基づき、うぐいすサロンの開催を推進すると共に、地区内への拡充に努める。	1)「ようろう絆の会」として、歳末福祉事業の企画。 2)移動販売の拡充検討。 3)サロンの地区内水平展開を検討して行く。	1)歳末ふれあい福祉として42名の高齢者を対象に、贈答品&児童作成のクリスマスカードをお届けし、相互の絆を深めた。 2)買い物支援事業として移動販売車の運行を週次にて実施。(大桶・川在・新巻) 3)川在から始まった共生型サロン。その後、山田町会・新巻町会へと順次拡大を図った。									★12/22 歳末ふれあい福祉として42名宅訪問				

2024 年度 事 業 報 告 （ 海上小域福祉ネットワーク ）

取 組 事 業 の 要 旨		24年度計画	24年度実績	計 画 & 実 績											
推 進 事 業	事 業 内 容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇海上小学校区小域福祉ネットワークとして8町会の連携強化の下、小域圏に於ける地域福祉施策の前進 ◇具体的な地域福祉施策として、以下の4点を事業の柱とする	1)地域住民への福祉に資する諸施策の企画・立案・推進 2)学区である海上小学校と連携した児童福祉施策の推進 3)高齢者への福祉サービスの提供と健康寿命の伸長を目指す	1)各事業の推進に向け、以下の会議を運営する ①推進委員会(2回/年) ②委員会(適宣) ③町会長・民生委員会議(必要に応じ都度開催) ④関係団体との連携		★4/21No1推進委員会 訪問員基礎研修会						★10/27No2推進委員会		★12/8役員会議、訪問員 フォローアップ研修		★2/9No3 町会長・民生 委員会議	
						★6/11海上小評議会	★7/7No1町会長・民生委員会議			★9/29No2町会長・民生委員会議					★2/1海上小評議会
I.児童福祉事業	◇学区である海上小学校と連携した児童福祉施策の推進	1)児童登校見守り 毎月第1,3水曜及び夏季・冬季・春季休明け初登校日 学校登校指導日に併せ実施 2)学校・PTAと連携した環境美化作業の取組み。3回/年 3)小学校資源回収作業の協力2回/年	児童登校時見守り日 26日/年 注)4月、9月、1月は休み明け 登校日から数日間のみ 8月は夏休み期間中、中止	登校時見守り ★4/8,9,11,12 ★5/1,15 ★5/11環境美化 5/12予備日 ★4/10入学式 ★5/25運動会	★6/5,19		8月夏休み中止 ★7/3,17 ★8/24環境美化 8/25予備日 ★7/13資源回収 7/14予備日		★9/2,3,4	★10/2,16	★12/4,18		★1/6,7,8	★2/5,19	★3/5,19
											★11/6,20			★2/15環境美化 ★1/18資源回収 1/19予備日	★3/14卒業式
II.地域福祉事業	◇医療・緊急カードの常備推進	1)常備状況の点検・確認 2)不足カードの補充	部数、戸数の確認 高坂町会 5部、37戸 安須町会 6部、56戸 浅井小向 5部、50戸 新生町会 5部、56戸 糸久町会 2部、27戸 権現堂町 8部、68戸 分目町会 4部、53戸 宮原町会 8部、60戸 43部、407戸				★7/7No1町会長・民生委員会議 進め方協議 ★記入カードの印刷、町会へ必要数配布 ★8月中旬知用広報紙配布と 記入カードの全戸配布 ★希望者へ 保管備とステッカー不足配布								
III.高齢者福祉事業	◇安心生活見守り訪問制度の遂行	1)見守り訪問員認定講習 2)見守り訪問活動の進歩管理 3)訪問員フォローアップ研修の企画・実践 4)歳末ふれあい福祉事業の企画・実践	・訪問員新規申請は年中受付後、講習会を設定する ・利用者申請は年中受付 ・施設など入所時は一時訪問解除 ・23年度は海苔の配布	★4/21認定講習			各町会訪問員単位で見守り訪問活動								
							★7/7歳末ふれあい福祉事業企画検討			★10/27No2推進委員会一歳末ふれあい福祉事業承認		★歳末ふれあい福祉事業申請	★12/8フォローアップ研修 及び事業展開		
IV.地域活性化事業	◇通いの場の制度改定により、海上地区では各町会の自立した取組みを集いの場と改称 ◇この集いの場を地域活性化施策の一環と位置づけ地域の絆を強める取組みとして推進して行く	1)各町会ごとに実施する集いの場、サロン活動はネットワーク事業の延長線上の取組みとして具体化を図る 2)買物支援施策の実施と拡大。方法の確立。 3)町会単位で地域ニーズを検討する会議を推進する	・施設側との連絡調整				原則月1回の開催で町会単位で計画。実施								
							第3火曜日買物ツアー実施、			ニーズに対応した検討を推進する					
							必要により町会単位で会議を推進								

